

- 腹痛に関する全国実態調査(一般女性および医師対象) -

**女性の4人に1人が、何もできなくなる程の「激しい腹痛」を経験
しかし、6割超は医療機関未受診
腹痛の原因を知りたい反面、受診すべき診療科や痛みの程度について迷いも**

- 医師側では、急激な腹痛について

「検査結果や所見と症状の強さが一致しない」と6割が難しさを実感-

- 各診療科での連携や、原因疾患となり得る難病のさらなる認知、検査体制充実が求められる-

Alnylam Japan 株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長 カタルジーナ・マリア・ヴィッコス)は、女性および医師を対象に、「腹痛に関する全国実態調査」を実施しました。腹痛は、一般の方にとって身近な症状であり、軽度なものもあれば、激しい痛みを伴い生活に悪影響を及ぼすものもみられます。女性の場合は、月経や子宮疾患などによる腹痛と向き合うことも少なくありません。腹痛の原因は他にも様々あり、特に、激しい腹痛には、診断が難しい難病が潜んでいる場合もあるため、適切な対処が必要です。

今回は、女性における腹痛を取り巻く実態を可視化するため、腹痛経験や症状・影響、診療状況などを調査しました。あわせて、医療者側の対応の状況・課題意識についても調査しました。

<主な調査結果>

【一般女性 1次調査】

女性15万人(15~49歳)の腹痛経験や対応状況を確認しました。

◇女性の4人に1人が、何もできなくなる程の「激しい腹痛」を経験。6割超は医療機関未受診

- 激しい腹痛(生活に影響する/その間に何もできない、激しい痛み)の経験者は27%。中等度の腹痛(生活は何とか維持できる、中等度の痛み)の経験者を含めると全体の67%を占める
- 中等度以上の腹痛経験者の内、腹痛の頻度が1か月に1回以上ある割合は57%。年代が若いほど頻度が高い傾向がみられる
- 中等度以上の腹痛経験者では、腹痛への対応は、67%が「市販薬で対応した」、60%が「腹部や体を温めた」など、セルフケアが中心
- 激しい腹痛経験者の内、65%が医療機関未受診の状況

【一般女性 2次調査】

激しい腹痛経験者で、医療機関未受診/受診したが治療を受けていない/治療を受けたが改善していない状況の方を対象に、追加調査を行いました(有効回答数10,222人)。

◇腹痛により日常生活の様々なシーンや心理面で悪影響。つらくても気丈に見せようと努力も

- 腹痛による日常生活や心理面への影響について、85%が「腹痛によって学校や仕事、家事に支障が出たことがあった」、61%が「腹痛がいつ生じるのかを不安に思いながら過ごすことがあった」
- 腹痛時の心理変化は、51%が「憂鬱な気持ちになる」、40%が「イライラする・怒りっぽくなる」

- 腹痛時の対応として、48%が「腹痛でつらい時でもなんともないように振る舞っている」、34%が「我慢する必要がある」、30%が「セルフケアでなんとかすべき」

◇ 腹痛の原因を知りたくても、受診すべき診療科や痛みの程度について迷いもみられる

- 腹痛について78%が「原因を知りたい」、「どの程度の腹痛で受診すべきか知りたい」、73%が「原因に合わせた治療を受けたい」、71%が「どの診療科を受診すればよいのか知りたい」
- 腹痛の原因がわからない時にかかる診療科として、「一般内科」を選択する意向が最多で50%、「総合診療科」は9%
- 総合診療科がどのような診療科か理解している割合は22%にとどまる
- 総合診療科がどのような診療科か知った後*は、64%が腹痛の原因・治療の相談意向を示した
*【回答者への提示説明文】 総合診療科とは、様々な症状が出ていてどの科を受診してよいか分からない場合や、診断がついていない場合などにかかっていたり診療科です。専門治療が必要な場合は、各診療科と連携しながら診療することもあります。
- 激しい腹痛の原因となり得る8疾患の内、「なんとなくわかる」以上の理解度は、「子宮内膜症」64%、「急性胃炎」57%、「胃・十二指腸潰瘍」54%、「虫垂炎」51%に至るが、「急性肝性ポルフィリン症」では4%

【医師調査】

腹痛の診療を日常的に行っている、内科／消化器内科／産婦人科／救急科／総合診療科の医師を対象としました(有効回答数 1,725 人)。

◇ 急激な腹痛について「検査結果や所見と症状の強さが一致しない」と6割が難しさを実感

- 腹痛診療では、92%が「腹痛の診療では原因を特定することが重要」、85%が「原因が特定できない場合、早めに他科や他施設にコンサル**すべき」と考える
**診断や対応についてアドバイスを受けて、患者さんを紹介するなどのコンサルテーション
- 急激な腹痛の原因が特定できない場合にコンサルした診療科は、全体では「消化器内科」がトップで59%。消化器内科がコンサルした診療科は「総合診療科」がトップで42%
- 急激な腹痛の診療における難しさについて、60%が「検査結果や所見と症状の強さが一致しない」、「患者さんの訴えが続いたり強かったりして対応に苦慮する」を挙げた。また「通常の間診・検査では原因がわからないことが多い」も51%を占める

調査時期:

一般女性対象:1次調査 2021年12月14日～17日

2次調査 2021年12月22日～23日

医師対象:2021年12月15日～28日

調査方法:インターネット調査

<専門家コメント>

田妻 進 先生(JA 尾道総合病院 病院長／広島大学名誉教授／広島大学大学院客員教授／一般社団法人 日本病院総合診療医学会 理事長)

腹痛は、軽度なものを含めれば多くの方が経験される症状であり、医療者にとってもコモン(一般的)な症候です。国内外の報告によると、急性発症の腹痛による救急外来受診者は5～10%を占めるとされ、広島大学病院総合診療科の過去の調査でも、成人の受診理由の1位が腹痛で約15%に至りました。

今回は10代後半～40代の女性を対象とした大規模な調査となりましたが、中等度以上の腹痛を経験している方が約7割を占め、何もできないほどの激しい痛みを経験している方は4人に1人に及ぶことが

結果として示されました。激しい腹痛を経験された方の中には、痛みの強さに苦しんだり、原因が分からず、痛みがいつ起こるか不安を抱える方も多いと思います。どのような場合に医療機関を受診し相談すべきか、改めて適切な対応を理解いただくことが重要と考えます。

激しい腹痛を引き起こす原因となる疾患は様々です。消化器系疾患では虫垂炎や急性膵炎、腸閉塞（イレウス）、炎症性腸疾患などが、婦人科疾患では子宮内膜症などが原因の場合もあります。また原疾患が腹部にあるとも限りません。例えば心筋梗塞や、肺炎などの呼吸器系疾患や全身疾患でも、腹部に痛みが生じる場合があります。

他にも、急性肝性ポルフィリン症（AHP）などの難病が隠れていることもあります。AHP は、若年女性の発症割合が多い遺伝性の希少疾患で、激しい腹痛を引き起こすことがあります。一部の薬剤やストレス、過度のダイエットなどが症状の引き金になる他、女性ではホルモンバランスの変化（月経や妊娠など）により、症状が現れやすくなります。症状からの鑑別が難しいため、AHPと診断されずに他の疾患と誤って判断され、適切な治療が行われなまま、長年にわたり激しい腹痛や様々な持続する症状に悩まされているケースもみられます。

今回の調査では、多くの医師が腹痛の診療では原因を特定することが重要と回答した一方、急激な腹痛を訴える患者さんの診療については、半数以上の医師が「検査結果や所見と症状の強さが一致しない」「通常の間診・検査では原因がわからないことが多い」などの難しさを感じている実態が示されました。腹痛の診療は、特定の臓器・疾患に限定せず多様な知見を持って多角的に行うことが求められます。そこで、重要な役割を期待されるのが総合診療科です。総合診療科では、どのような疾患にも対応し、速やかに診断を行います。症例に応じて、専門的な深い知見が求められる場合には各診療科と円滑に連携しており、腹痛に悩まされる患者さんの助けとなれるよう、診療を進めています。

激しい腹痛が繰り返し起こる場合や医療機関で診断がつかない場合、治療を受けても良くならない場合には、総合診療科への相談も検討していただければと思います。

Alnylam Japan 株式会社について

Alnylam Japan 株式会社 (<https://www.alnylam.com/alnylam-japan/>) は、次世代の医薬品として注目される核酸医薬の一つである RNAi 治療薬を日本の患者さんに提供するため、2018 年 7 月に設立しました。RNAi 治療薬は、従来はターゲットにできなかった標的分子に選択的に作用することで、これまで治療が困難だった疾患の新たな治療選択肢となる可能性があります。RNAi 技術を応用して、mRNA を標的として開発された世界初の siRNA 製剤オンパットロは、当社が日本国内で 2019 年に上市・販売した最初の製品です。2021 年には、2 成分目となる siRNA 製剤ギブラーリを上市・販売しています。当社は、医療の未来を切り拓く可能性のある新しい治療薬の開発に取り組み、アンメットニーズの解消に貢献することを目指しています。

###

本プレスリリースに関する問い合わせ先:

Alnylam Japan 株式会社

TEL: 03-6629-6180

Mail: press@alnylam.com

腹痛に関する全国実態調査 (一般女性および医師対象)

参考資料

調査概要

- ✓ 調査目的 女性における腹痛を取り巻く実態、医療者側の腹痛診療の実態を明らかにする
＜主な調査項目＞
 - ・女性の腹痛経験や対応状況
 - ・女性の激しい腹痛による影響、意識・対応の課題
 - ・医師の腹痛診療の状況や課題意識
- ✓ 調査対象 女性1次調査：15～49歳の女性 150,000人
女性2次調査：激しい腹痛経験者で、医療機関未受診／受診したが治療を受けていない
／治療を受けたが改善していない女性 10,222人
医師調査： 腹痛診療を日常的に行っている*、内科／消化器内科／産婦人科
／救急科／総合診療科の医師 1,725人
 - *内科／消化器内科：腹痛を訴える患者を年間50人以上診療
 - 産婦人科／救急科／総合診療科：腹痛を訴える患者を年間30人以上診療
- ✓ 調査地域 全国
- ✓ 調査方法 インターネット調査
- ✓ 調査期間 女性1次調査：2021年12月14日～17日
女性2次調査：2021年12月22日～23日
医師調査： 2021年12月15日～28日

【女性 1次調査】

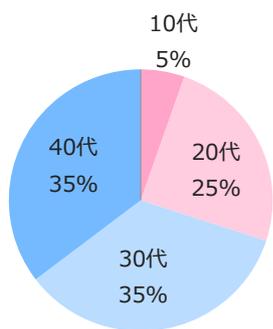
回答者属性

女性1次調査

年代

(n=150000)

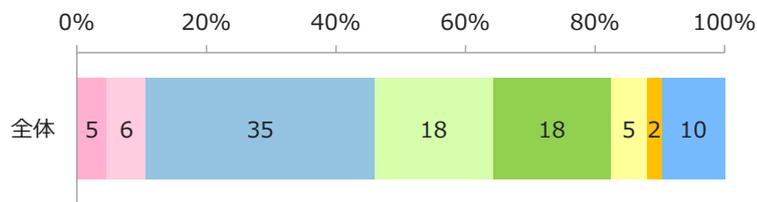
【平均年齢：35才】



地域

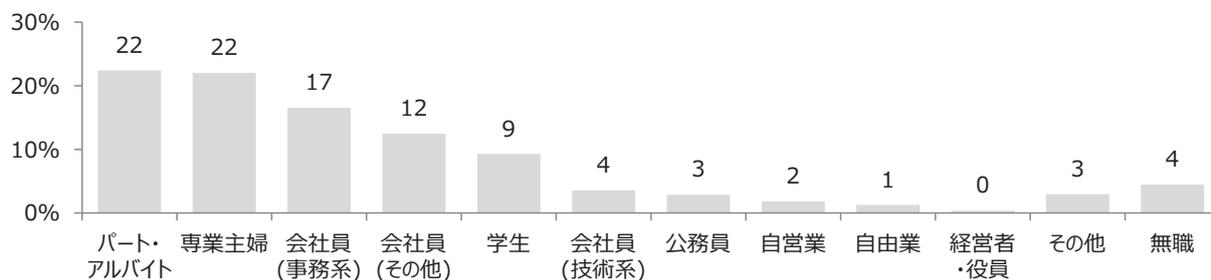
(n=150000)

北海道 東北地方 関東地方 中部地方
近畿地方 中国地方 四国地方 九州地方



職業

(n=150000)

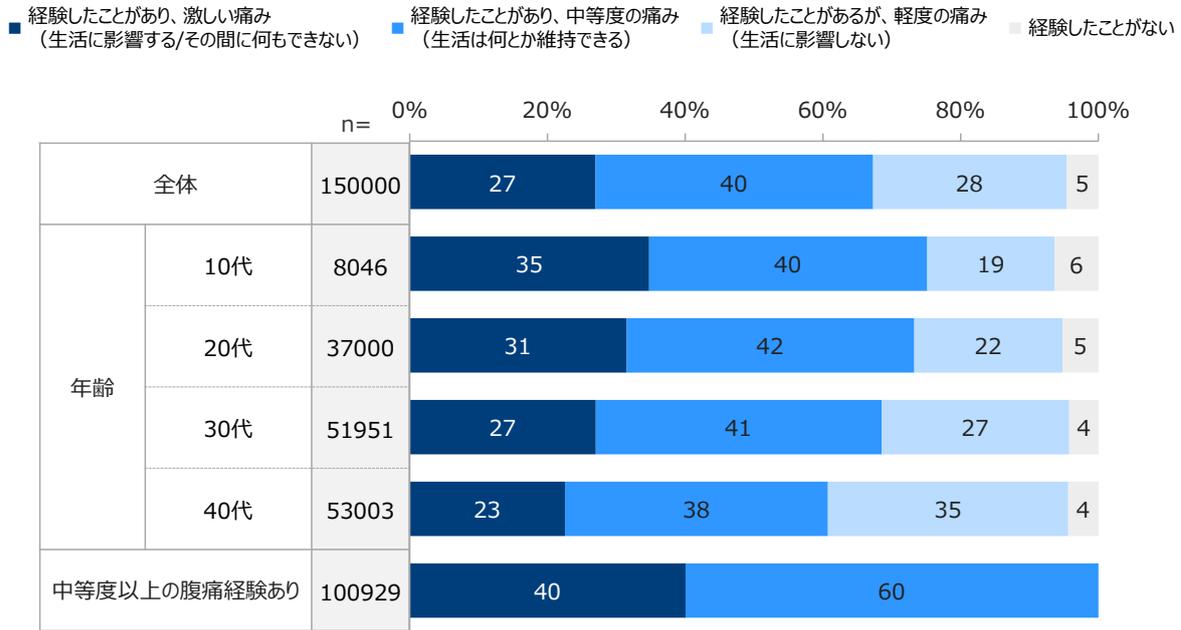


※全体のスコアで降順ソート

※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記

【Q1】腹痛（生理痛を含む）を経験したことはありますか。それぞれ該当する選択肢をお知らせください。
なお、複数回経験したことがある場合、より重症度の高い選択肢をお選びください。

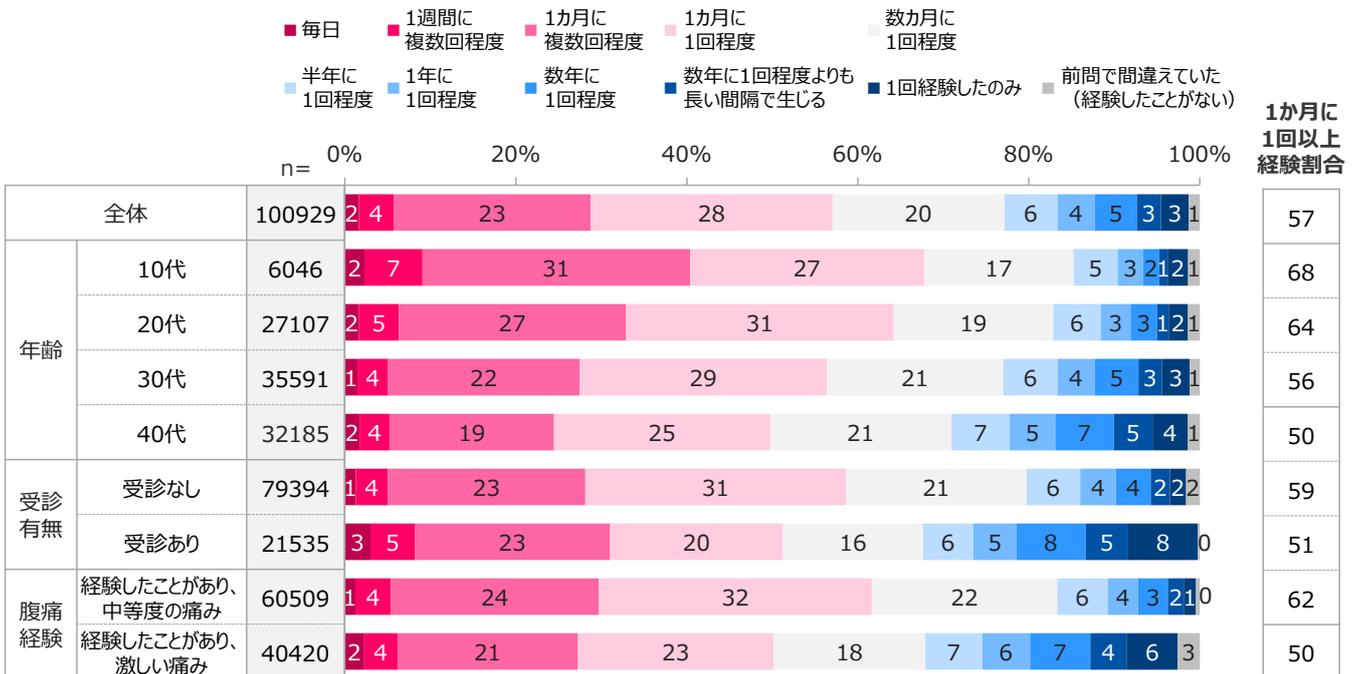
※回答者：全員



※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記

【Q2】このような痛みの腹痛はどの程度の頻度で起きますか。

※回答者：中等度以上の腹痛（激しい痛み・中等度の痛み）経験者



※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記

【Q3】 腹痛（生理痛を含む）の症状に対してご自身で行った対応として、あてはまるものをすべてお知らせください。〔複数回答〕

※回答者：中等度以上の腹痛（激しい痛み・中等度の痛み）経験者

(n=30以上の場合)

		n=	腹部や体を温めた	市販薬（薬局などで購入可能な薬：飲み薬や貼付薬を使用）で対応した	クリニック（入院施設はない医療機関）を受診した	病院（入院施設のある医療機関）を受診した	救急車で搬送された	その他の対応	一度も対応したことはない
全体		100929	60	67	13	10	3	2	8
年齢	10代	6046	67	62	9	8	1	2	10
	20代	27107	62	69	12	9	2	2	9
	30代	35591	62	69	14	10	3	2	8
	40代	32185	55	65	14	11	3	2	8
受診有無	受診なし	79394	61	70	0	0	0	2	11
	受診あり	21535	58	58	62	46	13	1	0
腹痛経験	経験したことがあり、中等度の痛み	60509	60	68	8	4	1	1	9
	経験したことがあり、激しい痛み	40420	61	67	21	18	6	3	7

※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記

医療機関の受診状況／症状改善状況

【Q4】 【Q5】 現在の状況としてあてはまる項目をお知らせください。

医療機関の受診状況

※回答者：中等度以上の腹痛による医療機関受診経験者

- 定期的に受診して治療を受けている
- 不定期に受診して治療を受けている
- 以前は治療を受けていたが現在は受けていない
- これまでに治療は受けていない

		n=	0%	20%	40%	60%	80%	100%
全体		21535	26	16	43	16		
年齢	10代	957	24	24	34	18		
	20代	5335	30	18	35	18		
	30代	7798	25	16	43	17		
	40代	7445	24	14	49	14		
受診有無	受診なし	-						
	受診あり	21535	26	16	43	16		
腹痛経験	経験したことがあり、中等度の痛み	7203	21	19	42	18		
	経験したことがあり、激しい痛み	14332	28	14	43	15		

症状改善状況

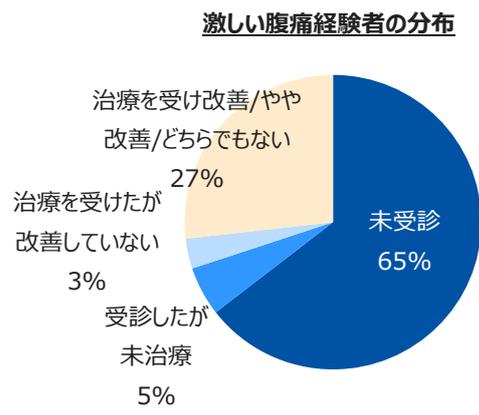
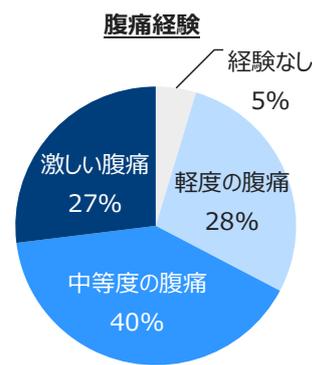
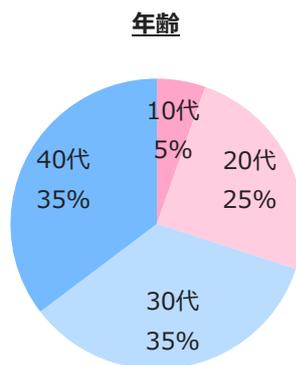
※回答者：中等度以上の腹痛による医療機関受診・セルフケア経験者

- 症状が改善している
- 症状がやや改善している
- どちらとも言えない
- 症状があまり改善していない
- 症状が改善していない

		n=	0%	20%	40%	60%	80%	100%	症状改善計
全体		92483	28	25	35	8	4		53
10代		5430	24	26	35	9	5		51
20代		24688	23	27	37	9	4		50
30代		32865	27	25	36	8	4		52
40代		29500	35	23	33	6	3		58
受診有無		70948	25	25	39	8	3		50
受診あり		21535	38	27	24	7	4		65
腹痛経験		55022	26	26	39	7	2		52
経験あり		37461	32	24	30	9	6		55

※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記

集計項目		サンプル数
全体		(150000)
年齢	10代	(8046)
	20代	(37000)
	30代	(51951)
	40代	(53003)
腹痛経験	経験したことがない	(6962)
	経験したことがあるが、軽度の痛み (生活に影響しない)	(42109)
	経験したことがある、中等度の痛み (生活は何とか維持できる)	(60509)
	経験したことがある、激しい痛み (生活に影響する/その間に何もできない)	(40420)
激しい腹痛経験者		(40420)
対応状況	医療機関受診なし	(26088)
	医療機関受診あり (受診したが未治療)	(2177)
	医療機関受診あり (治療を受けたが改善していない)	(1324)
	医療機関受診あり (治療を受け改善/やや改善/どちらでもない)	(10831)

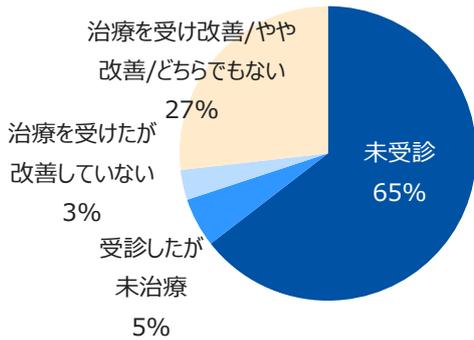


※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記

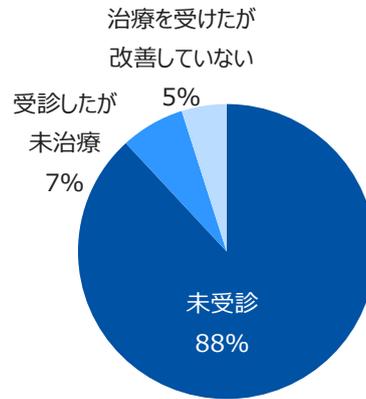
【女性 2次調査】

激しい腹痛経験者で、医療機関未受診／受診したが治療を受けていない／治療を受けたが改善していない状況の女性を対象に、追加調査を実施（有効回答数10,222人）

【女性1次調査】
激しい腹痛経験者の分布
(n=40420)



【女性2次調査】
激しい腹痛経験者の分布
(n=10222)



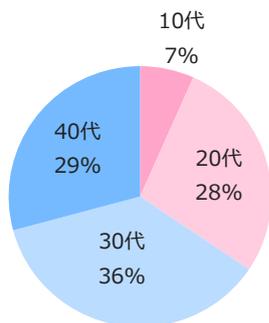
腹痛状況	サンプル数
激しい腹痛経験あり、医療機関未受診	9010
激しい腹痛経験あり、受診したが治療を受けていない	712
激しい腹痛経験あり、治療を受けたが改善していない	500

※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記 10

年代

(n=10222)

【平均年齢： 34才】



地域

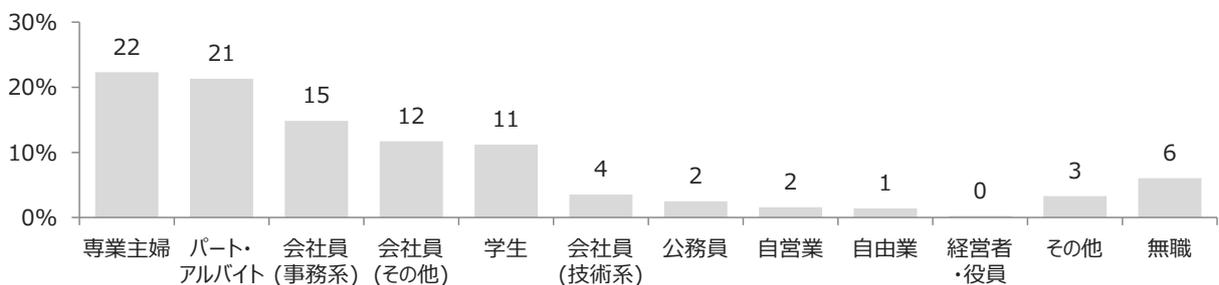
(n=10222)

北海道 東北地方 関東地方 中部地方
近畿地方 中国地方 四国地方 九州地方



職業

(n=10222)

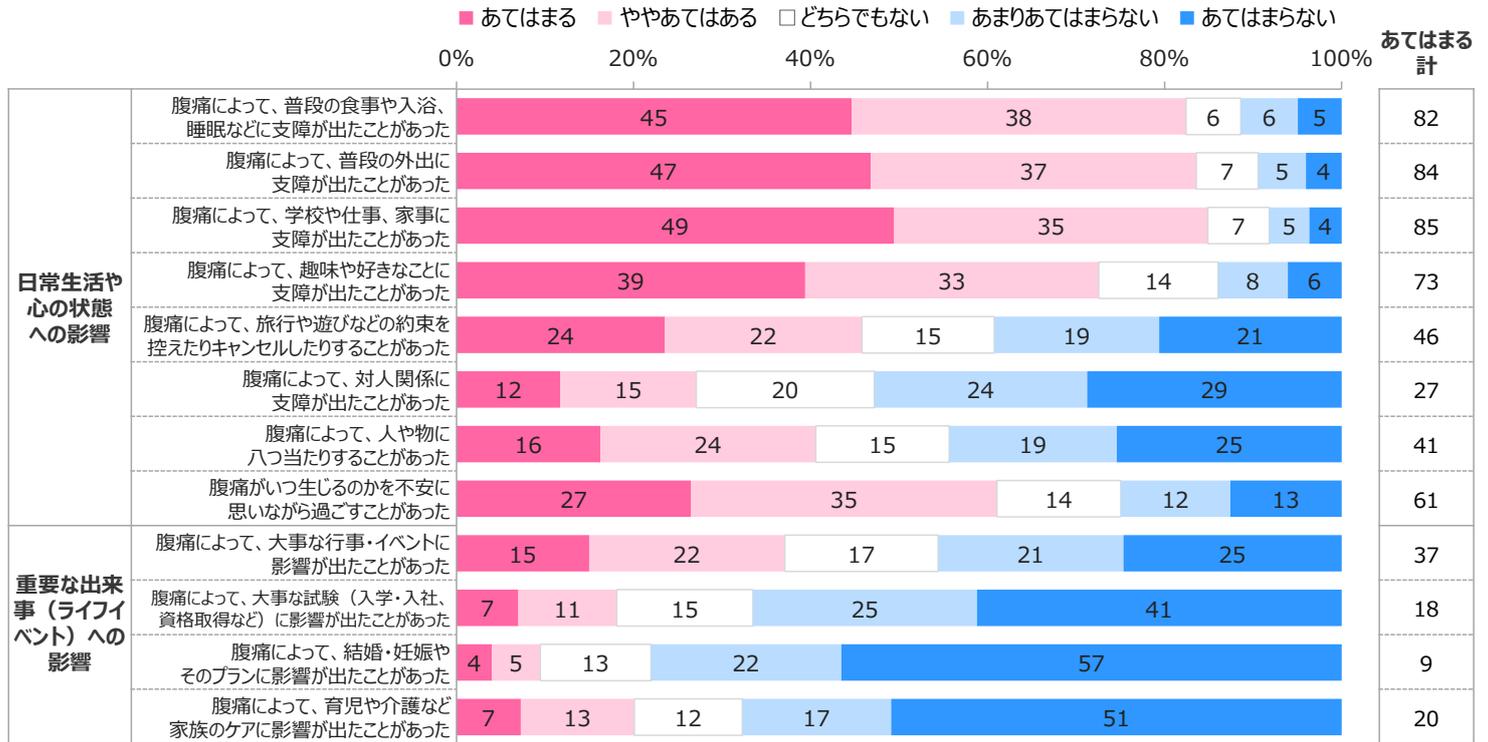


※全体のスコアで降順ソート

※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記 11

【Q1】腹痛（生理痛を含む）による影響について伺います。下記の状況はどの程度あてはまりますか。それぞれお知らせください。

※回答者：全員 (n=10222)

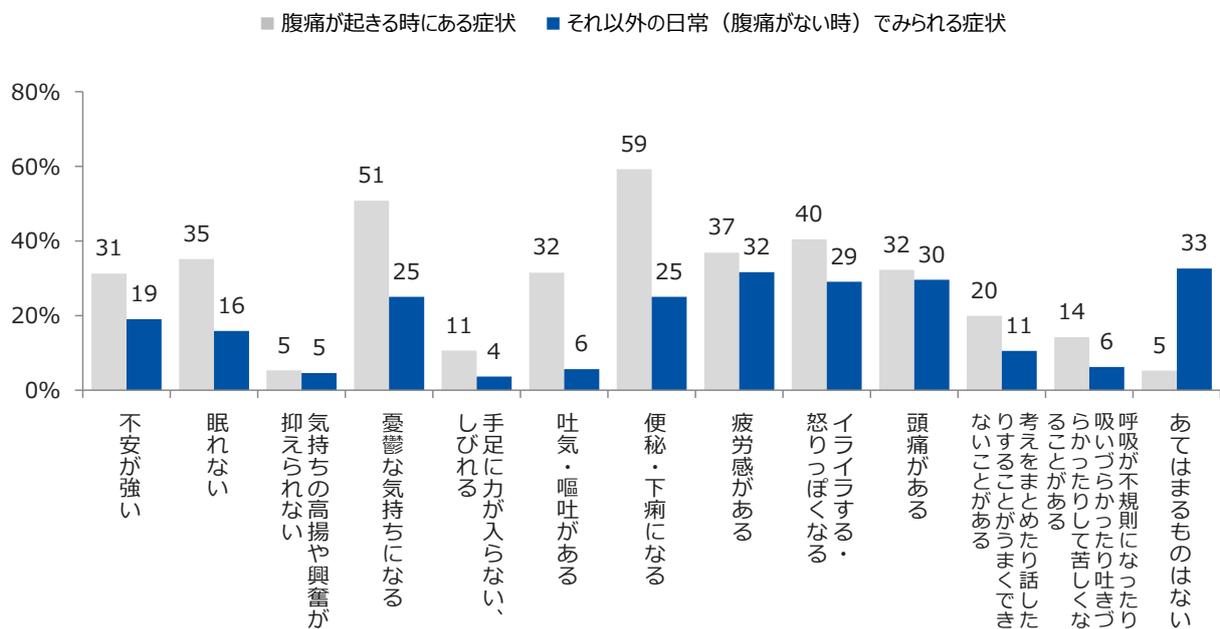


※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記 12

腹痛時および普段みられる症状

【Q2】腹痛が起きる時やそれ以外の時に下記のような症状はありますか。あてはまる症状をそれぞれお知らせください。【複数回答】

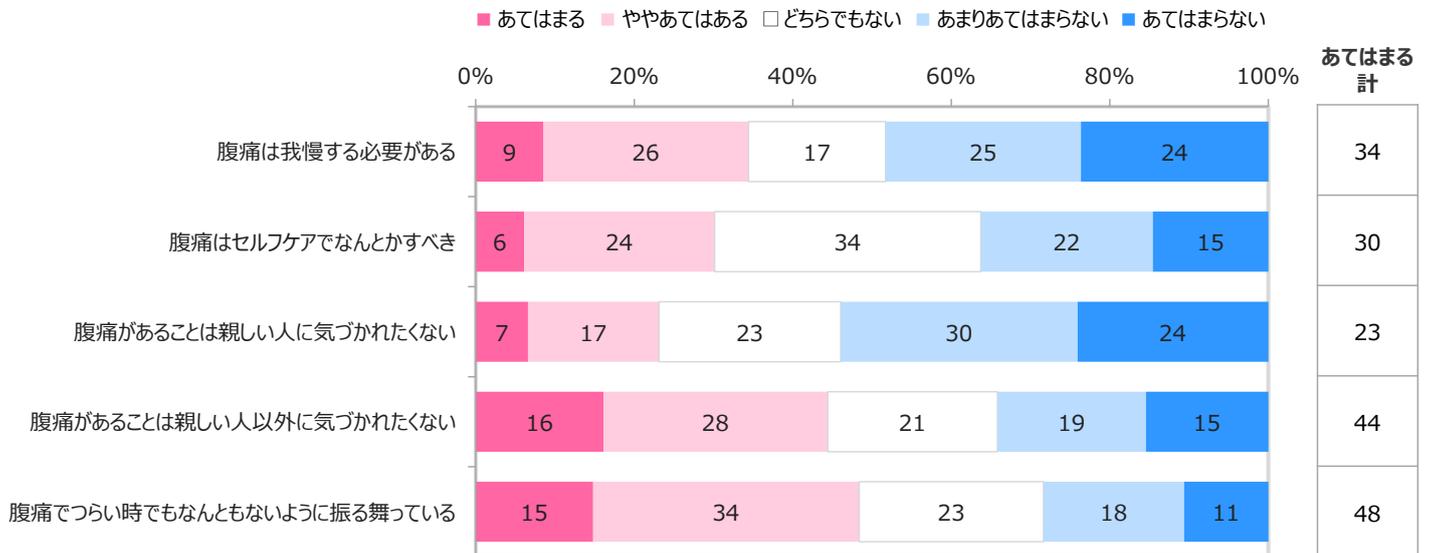
※回答者：全員 (n=10222)



※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記 13

【Q3】 腹痛（生理痛を含む）が起きた時の対応について、あなたのお考えや状況をお知らせください。

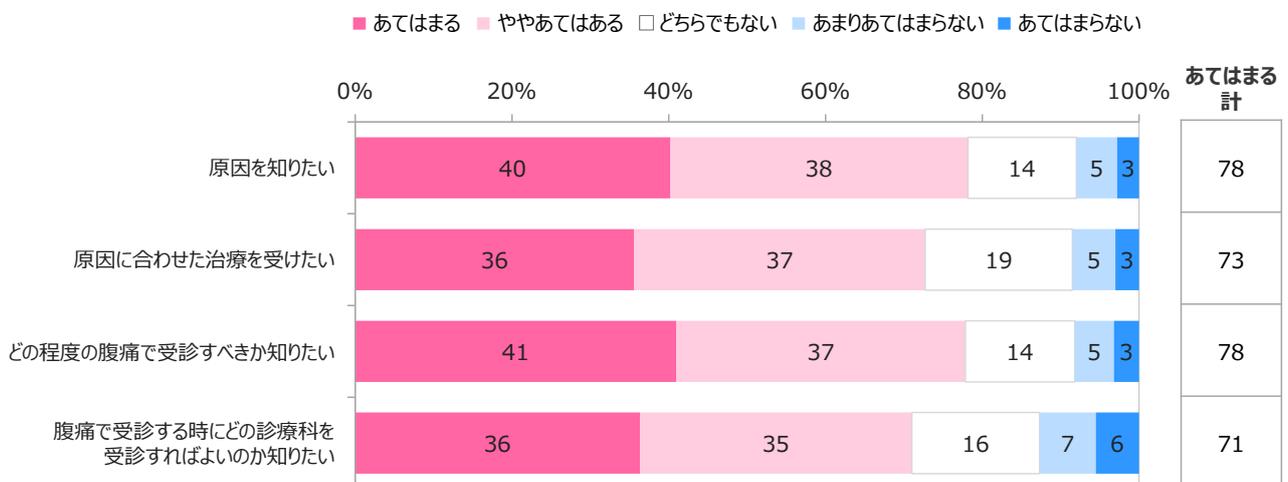
※回答者：全員 (n=10222)



※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記 14

【Q4】 腹痛（生理痛を含む）について、あなたの考えやお気持ちをお知らせください。

※回答者：全員 (n=10222)

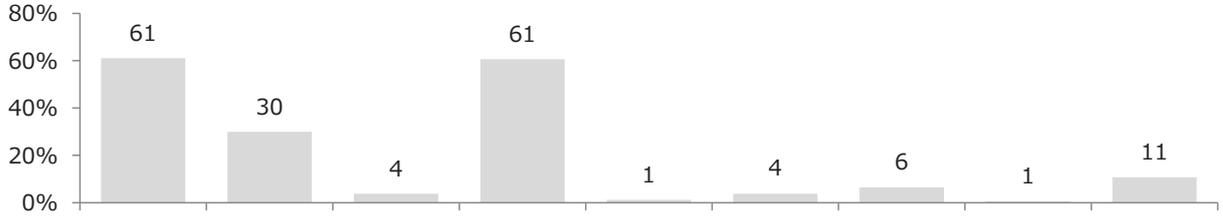


※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記 15

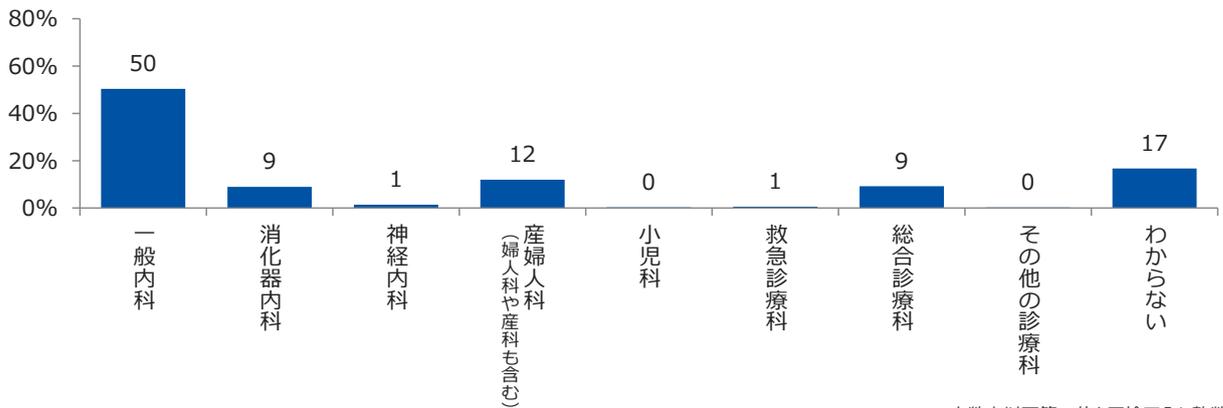
【Q5】 腹痛（生理痛を含む）で今後受診する場合、どの診療科を受診されますか。
 あてはまるとお考えの診療科をすべてお知らせください。〔複数回答〕
 また、腹痛の原因がわからない場合に受診すると思われる診療科をひとつお知らせください。

※回答者：全員 (n=10222)

腹痛で受診する診療科（すべて）



腹痛の原因がわからない場合に受診する診療科（ひとつ）



※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記

総合診療科や総合診療専門医の理解度、相談意向

【Q6】 総合診療科や総合診療専門医（先生）についてどの程度ご存知ですか。
 【Q7】 腹痛の原因がわからなかったり、治療を受けても症状が良くならない場合、総合診療科に相談してみたいとお考えになりますか。

<Q7：回答者への提示説明文>

総合診療科とは、様々な症状が出ていてどの科を受診してよいか分からない場合や、診断がついていない場合などにかかっている診療科です。
 専門治療が必要な場合は、各診療科と連携しながら診療することもあります。

※回答者：全員 (n=10222)

総合診療科について

- この診療科に、ご自身が診察を受けたり、身近に診察を受けた人がいる
- どのような診療科が把握している
- どのような診療科がだいたい把握している
- 名前は知っているがどのような診療科かわからない
- 聞いたことがあるような気がするがよくわからない
- 知らなかった

総合診療専門医について

- この医師に、ご自身が診察を受けたり、身近に診察を受けた人がいる
- どのような医師が把握している
- どのような医師がだいたい把握している
- 名前は知っているがどのような医師かわからない
- 聞いたことがあるような気がするがよくわからない
- 知らなかった

腹痛の原因がわからない場合の総合診療科への相談意向

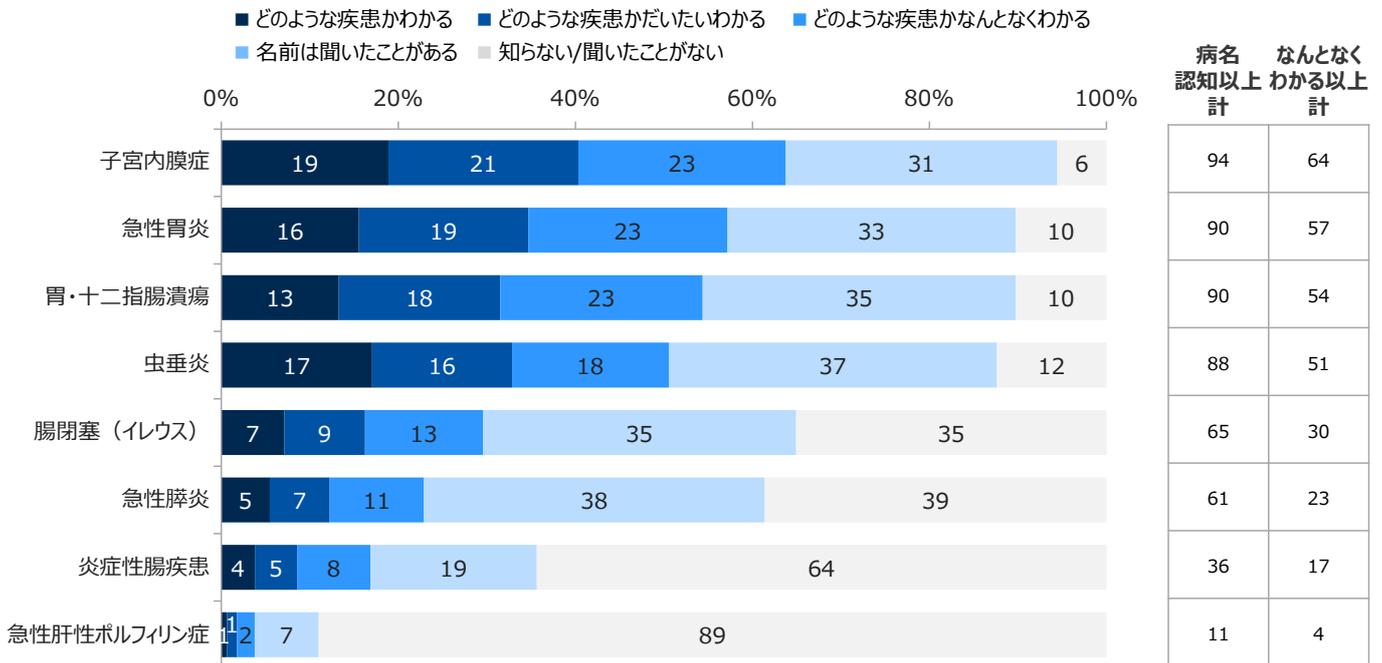
- 相談してみたいと思う
- やや相談してみたいと思う
- どちらとも言えない
- あまり相談したいと思わない
- 相談したいと思わない

腹痛状況	n	総合診療科について					総合診療専門医について					相談意向								
		把握以上	把握以上	把握以上	把握以上	把握以上	把握以上	把握以上	把握以上	把握以上	把握以上	把握以上	把握以上	把握以上	把握以上	把握以上				
全体	10222	7	41	23	21	33	22	5	37	26	17	42	15	25	39	25	56	64		
激しい腹痛経験あり、医療機関未受診	9010	7	41	23	22	34	21	5	37	26	17	44	14	24	39	25	56	63		
激しい腹痛経験あり、受診したが治療を受けていない	712	9	41	29	22	26	23	4	28	31	17	38	14	30	40	22	35	70		
激しい腹痛経験あり、治療を受けたが改善していない	500	15	8	13	27	18	19	36	12	6	11	28	15	27	30	37	36	18	54	73

※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記

【Q8】下記に挙げる疾患について、どの程度ご存知ですか。ひとつずつお知らせください。
 ※「どのような疾患かわかる」は原因や治療法を把握されている状態を指します。

※回答者：全員 (n=10222)



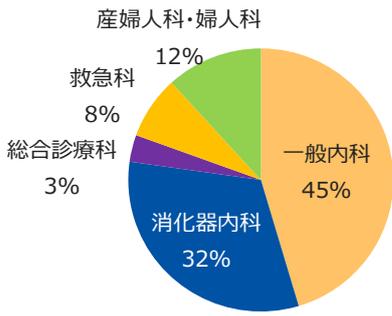
※「病名認知以上計」のスコアで降順ソート

※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記

【 医師調査 】

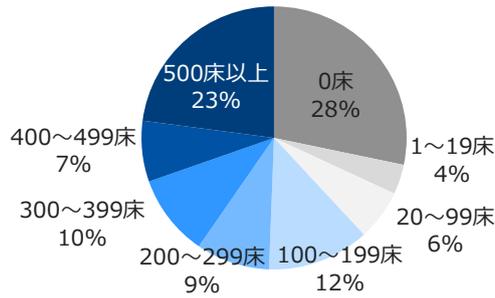
診療科

(n=1725)



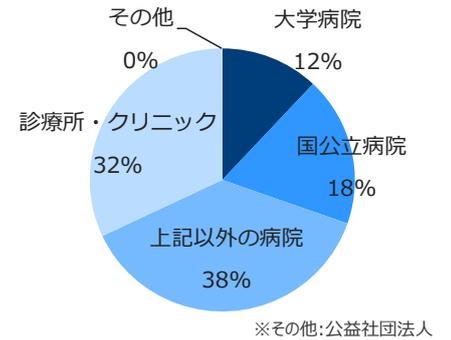
病床数

(n=1725)



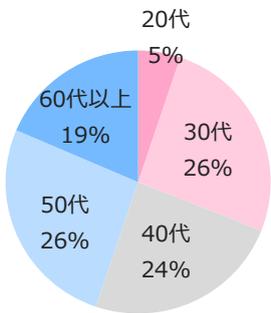
病院形態

(n=1725)



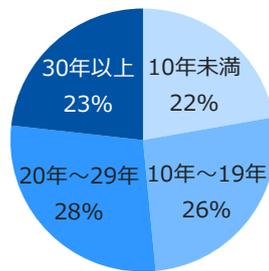
年代

(n=1725)



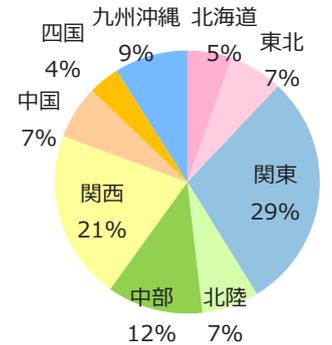
診療経験年数

(n=1725)



地域

(n=1725)



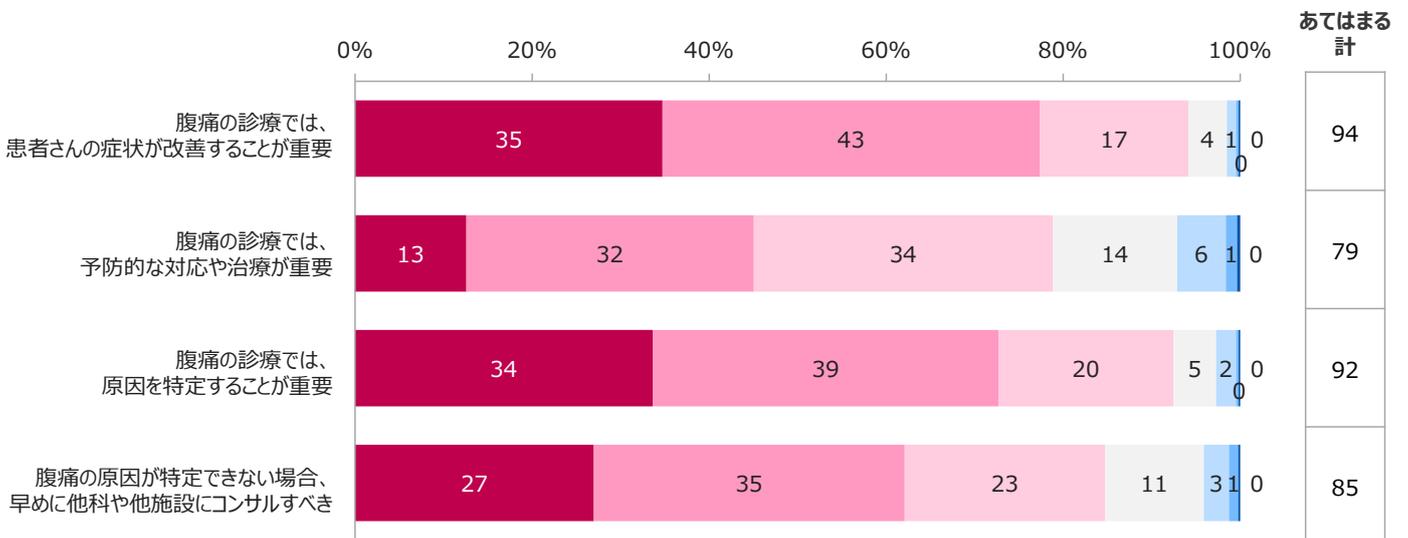
※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記

腹痛診療の考え方

【Q1】 腹痛患者の診療について、先生のお考えにいちばん近い項目をひとつずつお知らせください。

※回答者：全員 (n=1725)

■ とてもあてはまる ■ あてはまる ■ ややあてはまる ■ どちらでもない ■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない ■ まったくあてはまらない



※コンサル：診断や対応についてアドバイスを受けたり、患者さんを紹介するなどのコンサルテーション

※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記

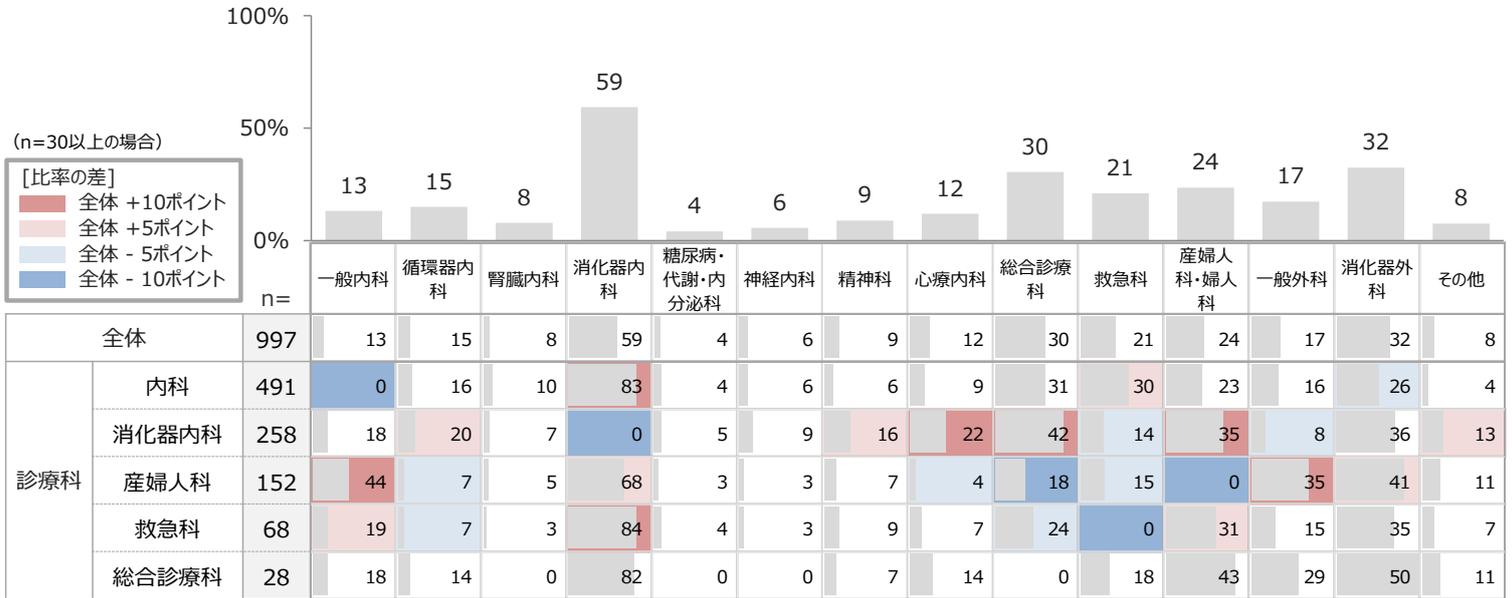
急激な腹痛の原因が特定できない患者について コンサルした診療科

医師調査

【Q2】 急激な腹痛の原因が特定できない場合、他施設や他科にコンサルしたことがあると回答されましたが、どの診療科にコンサルされましたか。【複数回答】

※コンサル：診断や対応についてアドバイスを受けたり、患者さんを紹介するなどのコンサルテーション

※回答者：原因が特定できない急激な腹痛患者を診療し、コンサルした経験のある医師 (n=997)



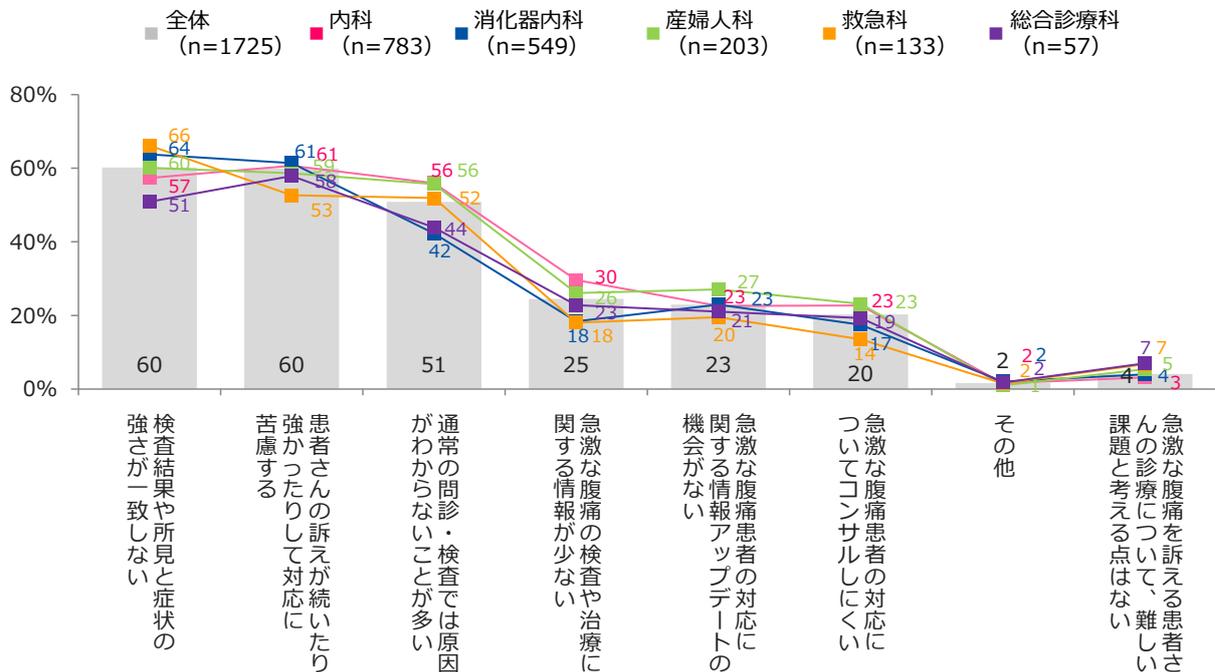
※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記

急激な腹痛診療の難しい点／課題

医師調査

【Q3】 急激な腹痛を訴える患者さんの診療において、先生が難しい／課題とお考えになる点について、下記の中で該当する項目をお知らせください。

※回答者：全員 (n=1725)



※全体のスコアで降順ソート

※小数点以下第一位を四捨五入し整数表記